環境省 中国四国地方環境事務所

瀬戸内海の環境保全を目指す 企業向け ESD 支援プロジェクト

● プロジェクトについて

瀬戸内海は多くの恵みをもたらしてくれる大切な生活基盤です。本プロジェクトでは、この基盤を守っていくため、海だけでなく上流から下流に至る流域全体を視野に入れ、幅広いステークホルダーをもつ企業を対象に、社会貢献や人材育成の ESD※1 モデルプログラムづくりを支援しています。

2015 年度は、このプロジェクトに応募いただいた岡山県内の 4 企業を対象に、企業側の希望や課題をふまえて各社オリジナルのモデルプログラムを検討、作成しました。2016 年度は、作成したモデルプログラムを各社が実践していきます。

※1 Education for Sustainable Development 持続可能な開発のための教育

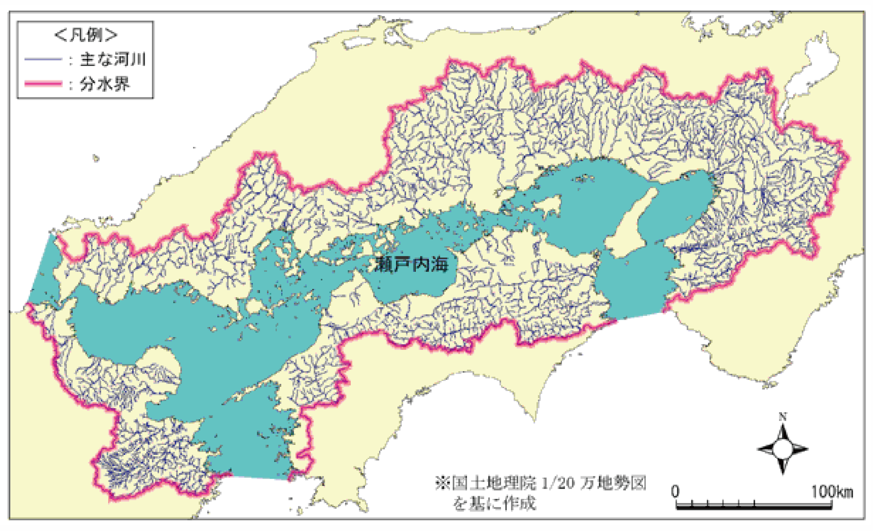
プロジェクトの目的

- 企業内における人材育成
- 幅広いステークホルダーへの情報発信
- 学校教育や生涯教育における社会貢献

森・里・川・海のつながりを意識して、企業の取り組みを後押しすること

↓

瀬戸内海の環境保全



（環境省 閉鎖性海域ネット　ホームページより）

瀬戸内海は、本州、四国、九州に囲まれ 3,000 万人の流域人口を抱える我が国最大の内海です。瀬戸内海流域に降った雨は、658 水系の河川を通じて海に流入しています。

● モデルプログラムの検討に参加いただいた皆様

企業	宇佐美正彰 氏	三井住友信託銀行㈱ 岡山支店・岡山中央支店 支店長
	小桐登 氏	㈱トンボ 環境マネージメント担当
	齊藤考治 氏	キリンビール㈱ 岡山工場 エンジニアリング・環境安全担当部長
有識者	田中丈裕 氏	NPO 法人里海づくり研究会議 理事・事務局長
	友延栄一 氏	岡山市市民協働局 ESD 推進課 副主査

（2016 年 3 月時点）

● プロジェクトの流れ

- 2015 年 11 月　参加企業の募集
- 2015 年 12 月　応募企業の選考会（4 社に決定！）
- モデルプログラム案の検討
  - 2016 年 1 月　応募企業へのヒアリング
  - 2016 年 2 月　第一回ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ検討会　第二回ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ検討会

- モデルプログラムの作成
- 企業向けセミナーの開催
  - 2016 年 3 月　作成したモデルプログラムの発表

- 2016 年 4 月～　モデルプログラムの実施

● 4 社のモデルプログラム

㈱荒木組（岡山市）

▶「マスメディアを通じて瀬戸内海と川・里のつながりを広く発信」

▶「工事現場の仮囲いを使った普及啓発」

主な対象：社員、流域の小中学校や工事現場周辺の住民等

瀬戸内海で問題になっている海ごみの解決には、上流の市街地等におけるポイ捨てゴミの抑制が欠かせない。新聞広告等を通じた自社の広告宣伝活動の中で、環境保全活動（右写真）や出前出張講座などを通じて集まった資料を工事現場の仮囲いなどに掲示して、瀬戸内海の保全について分かりやすく発信していく。

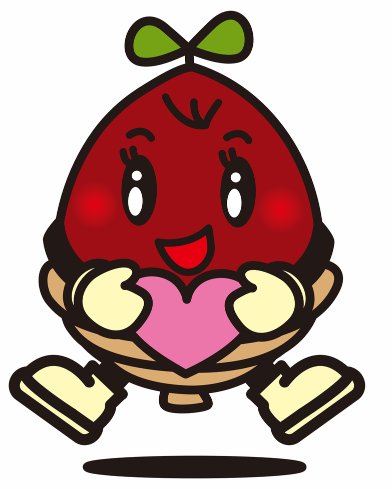
第 5 回天瀬・表町清掃活動 [4 月 3 日（日）]

ＮＩＫ環境㈱（倉敷市）

▶「“ゆるキャラ”を活用した瀬戸内海の環境保全」

主な対象：子どもおよび学生、教育機関や環境保護団体、社員等

NIK 環境から生まれたゆるキャラを主人公に、森里川海を通じた瀬戸内海の環境保全を題材にしたストーリーをつくり、出前講座のプログラムを作成、主に岡山県南の学校や幼稚園、保育園などに積極的に提供していく。



ECO & PEACE！ ラヴちゃん

性別：女の子
出身：森の中
性格：元気いっぱい

体はどんぐりをイメージし、エコと平和をハートで表現したキャラクターです。

倉敷木材㈱（倉敷市）

▶「森と瀬戸内海のつながりを感じてもらう『暮らしと木のフェア』の開催」

主な対象：社員

毎年春と秋に開催している一般向けのイベントで、瀬戸内海流域における森の重要性や役割を来場者に発信していく。イベント内容を検討する際には、社員から成るプロジェクトチームに ESD の専門家が加わり、課題を抽出、整理する。このプログラムを通じて、企業の一員としての情報発信、商品・サービス、社会貢献を考える人材を育成する。

服部興業㈱（岡山市）

▶「上流の森のことを下流の人々に発信」

主な対象：新入社員をはじめとする社員、下流の人々

真庭市にある社有林（約380 ha）で 8 月に行う新人研修プログラム（3 泊 4 日）に瀬戸内海の保全につながる題材を追加。研修に参加した社員が、上流の森の取組みや森を大切にしてきた企業の思い等を整理したパネルを作成し、岡山市内にある自社の「服部パーキング」やガソリンスタンド等で下流の市民に広く発信していく。

窓口：公益社団法人 日本ナショナル・トラスト協会